

郵政民営化に賛成の

おこのぎ八郎さんは...

小泉内閣が掲げる最重要課題である「郵政民営化」。衆議院本会議で賛成したおこのぎ八郎さんの胸の内をうかがってみました。

それでは、よろしくお願いします。さて、おこのぎさんが賛成された「郵政民営化法案」が参議院で否決され、衆議院が解散されました。率直にどうお思いですか？

【おこのぎ八郎】非常に残念です。郵政民営化は「小泉改革の本丸」です。しかしこの否決のために、いま早急にやっておかなければならない構造改革が、この先10年、20年と先送りになってしまうことは、この国の不幸ではないかと思えます。私はこの1年間、「経済産業副大臣」という小泉内閣の一員として、一緒に改革を推し進めてきましたので、こんなところで諦めるわけにはいきません。

自民党内のいわゆる「抵抗勢力」が、足を引っばっているということですか？

【おこのぎ】いえ、実はそうではないのかもしれませんが。これまで「小泉総理 v s 抵抗勢力」という構図は、自民党の内部の闘争だと思われていましたが、今となってみれば、本当の抵抗勢力は「民主党」なのではないかと、私は思っております。そもそも民主党は、総理の郵政民営化に拍手を送っていました。それなのに自民党の分裂を「これは政権奪取の千載一遇のチャンスだ」とばかりに、自民党以上にガチガチの党議拘束をかけて、党内の民営化賛成派の声さえも封じてしまいました。

「国会で対案を出さずに、政権を奪うために改革を阻止する」。こんな党利党略のために改革を遅らせるようでは、民主党には真の改革はできません。

ところで、郵政民営化の中身がよくわからないという人が実は意外と多いように思うんですが、民営化されると何が良くなるのですか？改めて教えてください。

裏面に続きます

【おこのぎ】JRもJTもNTTも、民営化によってある程度の成功を収めてきたといえます。また、郵貯・簡保の300兆円超が民間に流れ、約3割の国家公務員が民間人になることも、昨今の行財政改革の流れに沿うものであると思います。さらには、財政投融资という名の下、以前は郵便貯金や簡保資金は道路公団や政府系金融機関といった特殊法人などに流用されておりました。この中に含まれていたムダな部分を民営化された新会社が有効に活用すれば、新しい活力が生まれます。まさに小泉総理が訴える「民でできることは民に」の発想です。

景気回復のために、今こそ「民の力」がこの国のために必要だということですか？

【おこのぎ】その通りです。規制をできるだけ緩和して、民間の力をフルに引き出すことができる「小さな政府」が理想です。私は今回の選挙で、「中小企業の育成・支援」も公約のひとつとして掲げています。かつての中小企業は、大企業の下請けとして競争力を養う環境になかったのかなと。バブルが崩壊して景気が後退し始めてから、ようやく気づいたのですね。「このままではダメだ」ということを。そういった企業が、アイデアと工夫を凝らして今、業績を伸ばしています。やる気と能力のある企業がこの国の産業をリードし、それを国がしっかりとサポートしてあげれば、やがては「経済の活性化」につながるものと、私は信じております。「努力した者が報われる国家に」。これが私の一貫した政治信条であります。郵便局も郵貯や簡保に頼ることなく、自らでサービスの幅を広げ、地域みなさんに愛されるようになってはいけません。自分の足で立ち上がる、このきっかけをつくってあげることが「郵政民営化」の本来の目的なのです。

よく解りました。ぜひ、がんばってください。それでは、最後に一言。

【おこのぎ】はい。私たちの子や孫が安心して暮らし、将来に夢と希望が持てるような国にするためには、どうしても小泉総理が主張する行財政改革を成し遂げなければなりません。その大きな柱となる「郵政民営化法」を次期国会でもう一度審議し、何としても成立させることをこの選挙戦で訴えてまいりたいと思います。

どうもありがとうございました。

おこのぎ八郎さんを支援する会

横浜市神奈川区反町1-7-1

TEL:045(323)6000 FAX:045(323)2974

E-mail:g00833@shugiin.go.jp

<http://www.hachirou.com>